



# FLAMINGO

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/edaminami/>

令和6年1月31日発行  
横浜市立荏田南小学校  
学校だより 2月号



## きっかけに

副校長 井上 晋吾

先日、箱根駅伝往路優勝のトロフィーを制作されている「金指ウッドクラフト」に行きました。ここは社会の教科書でも紹介されている「箱根寄木細工伝統工芸士 かなざしかつひろ 金指勝悦さん」のお店です。

箱根寄木細工は、木材を寄せて接合した寄木をかんなくて薄く削って模様紙のように作品に貼り付けていきます。対して、金指勝悦さんの寄木細工は、材料をそのまま削り出して作る「無垢(ムク)」という技法です。

では、どのようにして金指さんは寄木細工に出会ったのでしょうか。少し調べてみました。

江戸時代、箱根旧街道沿いの村・畑宿では、旅人たちのお土産として箱根寄木細工が生まれ、江戸時代の終わり頃には、箱根寄木細工を生業とする村人が多くいました。しかし、手間暇がかかる寄木細工は商売として成り立ちにくくなり、第二次世界大戦以後、次第に衰退していきます。昭和45年ごろに、技術がなくなることを惜しんだ方が、寄木細工の講習会を開きます。そこで金指さんは寄木細工に出会い、伝統に育まれた寄木の面白さ、自然の木の色の美しさにたちまちのうちに虜になります。そして「畑宿にまた寄木を復活させたい」という思いから寄木細工の世界に入ります。しかし「寄木細工ではメシは食えない」という周囲の反対もあったそうです。それでも熱い思いから技術を習得され、ついに無垢の寄木ブロックそのものをろくろで削り出し、立体作品を制作する「無垢作り」という独自の技法を産み出します。その新しい技法により、箱根寄木細工は人気となり、伝統文化が息を吹き返します。平成9年から往路優勝校に贈られる箱根寄木細工のトロフィーを26年間、作り続けられ、2022年にお亡くなりになりました。その思いはお弟子さんたちが引き継いで、第100回目となる今年の箱根駅伝でも箱根寄木細工のトロフィーが製作され、往路優勝校に贈られました。



大谷翔平選手から3つのグローブが届きました。6年生から順番にクラスごとにまわしているところです。そのグローブを手にとって、どんなことを子どもたちは感じるのでしょうか。金指さんは、講習会での出会いがきっかけでした。大谷翔平選手の思い、グローブに出会い、大きなきっかけとなる子どももいると思います。

学校では、様々な学習や生活を通して、様々な「人」や「出来事」にふれていきます。子どもたちの将来へと進むステップの支援ができればと思います。

2月には創立40周年記念集会があり、これまで学校を支援してくださった地域の方の思いにふれます。子どもたちにとってどんなきっかけとなるのか楽しみです。